

平成 2 8 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 5			学校名	県 立 中 央 高 等 学 校					課 程	全 日 制			学校長名	西 野 隆				
教頭名	中 野 雅 一													事務（室） 長名	白 田 宏 保				
教職員数	教諭	3 4	養護 教諭	1	常勤 講師	2	非常勤 講師	7	実習教諭 実習講師	1	外国語 指導助手	1	事務 職員	3	技術職 員等	3	計	5 2	
生徒数	学科・コース			1 年		クラス数	2 年		クラス数	3 年		クラス数	生徒数合計		合計クラス数				
				男	女		男	女		男	女		男	女					
	普通			6 7	9 3	4	7 2	8 7	4	6 4	9 2	4	2 0 3	2 7 2	1 2				
	(普)スポーツ科学			3 0	1 0	1	2 7	1 2	1	2 7	1 0	1	8 4	3 2	3				

2 目指す学校像

- ・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。）
- ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。）
- ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。）

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学 習 指 導	・どの授業においても、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。 ・生徒の進路希望に合わせて特進クラスと普通クラスを設置しているが、卒業生の進路から生徒の希望に応じた授業展開が行われている。 ・担当教諭の学習指導に前向きに取り組み、継続した生徒の学力が伸びている。 ・生徒の学習意欲に差があり家庭学習をほとんどしない生徒が全体の3割以上いる。	・基礎学力の定着 ・学習意欲の高い生徒のニーズに応える授業内容・指導法の工夫改善 ・生徒の将来に繋がる意識の喚起と授業展開 ・校内での学習に加えて、家庭での学習時間の向上

項 目	現 状 分 析	課 題
進 路 指 導	・国公立大学合格者数2名（昨年9名）、私立大学延べ合格者数60名（昨年170名）、短大合格者数12名（昨年6名）、専修学校合格者数89名（昨年64名）、就職者41名（昨年27名）という結果であった。 ・4年制大学進学希望者が少ない学年であったため、その結果国公立大学合格者や私立大学合格者が減少し、短期大学、専修学校、就職の人数が増加した。 ・国公立大学合格者数2名の内、1名は一般試験（前期）での合格であった。また、センター利用入試でも多くの合格者を出すことができ、大学進学を目指す生徒の意識が、高い学力を身につけて進学しようという方向に変化してきていることが窺える。 ・学習意欲、進路達成意欲のあまり高くない生徒に対して、より高い進路目標を掲げ、希望進路を実現するために、今年度も中央高校進路指導年間計画表（中央メソッド）を作成し、各学年で実施した。 ・各学年において、中央メソッドに基づいた土曜課外、模擬試験、各種進路行事等が計画的に実施され、課外への参加生徒の増加や進路意識の高揚、実力養成につながった。	・国公立大学合格など高い進路希望を実現できる学校として、地域から認識されるためにも、生徒一人一人に高い進路目標を持たせ、個々の進路実現に向け学力を伸ばしていくことが重要 ・生徒の学力の底上げとして大学進学希望者数の増加に取り組み、学校としての進路目標として、国公立大学合格者数二桁、大学一般合格者数の増加、中堅私大合格者数の増加、早期の進路意識の高揚を継続 ・進路指導年間計画表（中央メソッド）に沿った計画的進路指導のなお一層の充実 ・4年制大学進学希望だけではなく、短期大学、看護専門学校や産業技術短期大学などある程度の学力を要する進路先に対応できる学力養成や、就職希望を実現する基礎学力の定着など幅広い生徒のニーズに対応した進路指導
特 別 活 動	・学校行事充実への生徒の期待感が高まっている。 ・スクールバス制度に支えられ、64%の生徒が放課後の部活動に取り組んでいる。 ・生徒会役員が各種説明会での生徒代表として大きく貢献している。	・学校行事の充実（文化祭、クラスマッチ） ・部活動の活性化と強化 ・活発な生徒会活動の展開
生 徒 指 導	・自ら進んであいさつができる生徒が減少している。 ・登下校では、頭髪、服装などほとんどの生徒が順守しているが、校舎内では、約10%の生徒に襟元の乱れなどがみられる。 ・ソックスをルーズに履いている女子生徒が見られる。 ・遅刻など基本的な生活習慣が身につけていない生徒が数名いる。 ・自転車通学者の約10%の生徒に、車道の右側通行、傘さし運転など道交法違反をしている場面が見受けられる。 ・生徒への指導について教職員の共通理解がさらに必要である。 ・中学時に不登校であった生徒やおとなしい生徒の居場所が教室にあり、落ち着いた学校生活を送っている。	・校舎内外の巡回指導や登校指導の充実 ・主体的に校則を順守できる意識の向上と公共の場でのマナーの高揚 ・教職員間の指導基準の再確認と一部の教職員に過度な負担がかからないよう全職員による生徒指導の徹底 ・反社会的な行動をする生徒を生まない雰囲気づくりや非社会的な行動をとらない安全・安心な教育環境の整備

4 中期的目標

- ・多様化した生徒の学習意欲を喚起するための教育内容・教育方法の充実を図る。
- ・生徒の進路希望を実現するために、課外指導等の充実を図り、きめ細かな進路指導を行う。
- ・生徒指導の一層の充実を図り、規律正しい行動ができる生徒の育成に努め、明るく学校作りを目指す。
- ・心の問題を抱える生徒が多くなっている現状を重視し、個人面談・教育相談体制の充実を図る。
- ・活力ある学校づくりのために、部活動の充実と強化を図る。
- ・明るく楽しい学校生活になるようホームルーム活動、生徒会活動、歩く会、クラスマッチ、芸術鑑賞会等の内容の充実を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学力の向上と主体的な学習の育成を目指した授業の展開	(1)わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2)学習意欲を高めるため考査の充実を図る。 (3)シラバスの有効活用に努める。 (4)家庭学習の習慣化を図る。
2 進路指導における中央メソッドの具体的運用と充実（国公立大学合格者10名、私大合格100名以上、就職内定100%）	(1)課外指導の計画的実施及び受講生徒数の増加を図る。 (2)キャリア教育の充実を図り、個々の生徒により高い進路目標を設定する。 (3)進学を意識した進路指導を実施する。 (4)インターンシップ、大学見学会や面談指導等を充実する。 (5)進路ガイダンス、各種調査、模擬試験等を計画的に実施する。
3 HR活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進及び結果の広報	(1)企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2)部活動の充実・強化を目指す。
4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実による規範意識の高揚	(1)頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2)毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3)生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4)いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。